

宮古発

「真崎わかめ」新工場



宮古市の名産品「真崎わかめ」の新工場完成祝賀会が田老町漁協で開催されました。ワカメを加工する新工場は5月に完成し、従業員40人と芯を取る作業に携わるパート30人を雇用しています。祝賀会はワカメの生産者といわて生協の組合員の70人が出席して開かれました。いわて生協は田老町漁協のワカメを40年前から販売していた関係で、震災後はトラックの寄贈など様々な支援を行ってきました。今年度は「産直真崎わかめ」の消費拡大に取り組み、5000万円の売り上げを目指すということです。(6/18 ニュースエコー)

大船渡発

「ナマコの種苗」放流

大船渡市では震災後初めて「ナマコ」の種苗が海に放流されました。放流したのは大船渡市内の4つの漁協で、このうち大船渡市漁協大船渡支所には県栽培漁業協会種市事業所が生産し、3センチから5センチほどに育ったナマコの種苗2000個が到着。漁協職員が大船渡湾西側の4か所で放流しました。ナマコはコリコリとした独特の歯ごたえが人気で、大船渡支所では震災前は毎年2万個の種苗を放流していました。今回放流したナマコの種苗は5年ほどかけて出荷サイズの15センチに育つということです。

(6/18 ニュースエコー)



盛岡発

原発事故の賠償請求

県は「原発放射線影響対策本部員会議」を開き、東京電力へ福島第一原発事故に伴う第7次損害賠償として、除染経費19億8000



万円、人件費6000万円など33億円余りを請求することを決めました。県などは東京電力に対してこれまで88億8000万円を賠償請求し、61%にあたる54億5900万円が支払い合意に達しています。(6/22 ニュースエコー)

仙台発

一部負担受け入れ表明



岩手、宮城、福島県の3県の知事は宮城県庁で竹下復興大臣と会談し、来年度以降5年間の復興事業費の一部で地元負担を導入する

政府の方針について受け入れを表明しました。達増知事は内陸と沿岸をつなぐ復興支援道路で地元負担が生じることについて「大変残念な結果」と述べた上で、政府方針を受け入れる考えを示しました。また、宮城の村井知事、福島の内堀知事も受け入れを表明しました。(6/23 ニュースエコー)

大槌発

さんりく元気ラジオ!

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

今週は、おおつちさいがいエフエムの菊池由貴子さんが、今年の4月に発足した「大槌メディアセンター」について伝えてくれました。東日本大震災後に大槌町では、地元の出来事を伝える新聞や災害ラジオなどが立ち上がりましたが、これらのメディアを抱合した組織が「大槌メディアセンター」です。行政とも連携した市町村単位の新しいメディアを目指して活動するとのことで、菊池さんは「これからも色々な方面から大槌町を伝えたい」と話していました。(6/24)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.abc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122